

生命のにぎわい通信

第 68号 : 令和 5年 (2023年) 10月 発行

発行 : 千葉県環境生活部 自然保護課
生物多様性センター

〒 260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

(千葉県立中央博物館内)

TEL : 043-265-3601 FAX : 043-265-3615

URL : <https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>E-mail : monitor@bdcchiba.jp

秋にも見られるハチの仲間

多種多様な昆虫が観察できた賑やかな夏が過ぎ、肌寒い秋がやってきました。秋になったとはいえ、まだたくさんの昆虫類を観察することができます。日本に4,000種以上が生息するハチ類は、秋にも出会うことができる昆虫の1つです。今号では、秋にも見られるものの中から9種を紹介していきます。普段何気なく見過ごすことの多いハチですが、姿形や生態は多様です。秋の観察対象として探してみたいかたがでしょうか。写真上の数値は体長です。

*写真は全てセンター職員が撮影したものです

ニホンミツバチ



10-17 mm

養蜂に用いられるミツバチの1つです。スズメバチに襲われると集団でボール状に覆いかぶさって蒸し殺します。刺すことがあります。

キアシブトコバチ



5-7 mm

小型のハチで、幼虫はチョウやガの蛹に寄生します。冬季には、樹皮や樹木名プレートの裏で集団越冬します。

トラマルハナバチ



18-25 mm

森林や林縁で普通に見られますが、近年各地で減少中です。長い舌を使って、花の奥にある蜜や花粉を食べます。

ミカドトクリバチ



10-15 mm

森林や林縁で見られます。泥でトクリバチ状の巣を作り、幼虫はその中で育ちます。餌は親が運んでくるガ類の幼虫です。

ヒメハラナガツチバチ



15-22 mm

林縁や公園で普通に見られるハチです。地中に巣を作り、その中で狩ったコガネムシの幼虫に卵を産み付けます。

オオフトアオビドロバチ



15-20 mm

竹筒や木材等に巣を作り、そこで幼虫にイモムシを与えます。泥で巣の内部を区切ったり、入り口に蓋をします。

ムモンホソアシナガバチ



15-20 mm

広葉樹林の林縁でよく見られるハチで、葉の裏や枝に巣を作ります。主にイモムシを食べます。人を刺すことがあります。

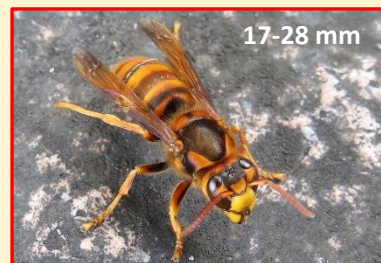
オオスズメバチ



27-45 mm

大型で有毒なハチです。昆虫や樹液を食べ、ミツバチやスズメバチ類を襲うことがあります。土中や樹木の根元等に巣を作ります。

キイロスズメバチ



17-28 mm

中型で有毒なハチです。昆虫や樹液、動物の死骸を食べます。攻撃性は割合高く、民家の屋根裏に巣を作ることがあります。

□の写真は人を刺すことがあるハチです。スズメバチ類では死亡例もありますので、観察する際は十分ご注意ください。巣に近づいたり、危害を加えないようにしましょう。

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団 : <https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> 生物多様性センター : <https://www.bdcchiba.jp/>

古典文学と里山の生き物たちの世界



第二十二回 リンドウ

Gentiana scabra var. *buergeri* リンドウ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をしていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

リンドウは、秋の里山を彩る青紫色の野の花として代表的なもののひとつでしょう。千葉県内では10月の終わり頃から咲き始めます。谷津田の斜面の下部のようなやや湿った環境に多く、晴れた日にだけ5弁の鐘型の美しい花を開かせます。近年、開発や鑑賞目的の採掘などで各地で数を減らしており、千葉県のレッドデータブックへの掲載こそありませんが、全国の10の都府県のレッドリストに掲載されるに至っています。

そんなリンドウが我が国の文学に最初に登場するのは、西暦1000年頃に成立した『枕草子』です。

歴史や文学に特に興味のない方でも、枕草子が清少納言によって書かれた随筆集であること、「いとをかし」というフレーズがたくさん出てくることくらいはご存じであることでしょう。リンドウにもまた、「いとをかし」という形容が使われています。

^{りんどう}竜胆は、枝ざしなどもむつかしけれど、^{ことはな}異花どもの皆霜枯れたるに、いと花やかなる色あひにてさし出でたる、いとをかし

リンドウというのは、挿し木をするのは難しいけれど、霜が降りて他の花がみんな枯れている中で、とても鮮やかな色合いで咲いているもので、大変趣がある、というのです。実際、現在でも、リンドウを栽培するには挿し木（挿し芽）を用いるのだそうです。その方法は1000年前から既に確立されていたのでしょうか。もしかしたら清少納言もやってみたのでしょうか。「むつかし」かったということは、うまくいかなかったのでしょうか。



画 齋藤倫瑠

前回のコラムでもちらりと触れたように、清少納言は、これほど知名度の高い文学者であるにしては、同時代の毀誉褒貶の激しかった人物です。しかし、霜枯れの野にリンドウだけが豊かな色彩とともに咲いている光景に趣を感じ取るというこの一文には、いまを生きる我々にまで連綿と受け継がれる、日本人の自然に対する姿勢とされるものの、そのひとつの典型が間違いなく息づいています。

<これからの季節に観察できる生きもの>

- 調査対象種: ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチヨウ(黄葉)、イロハモミジ(紅葉)など
 - 調査対象種以外
 - * 渡りのシギ・チドリ類などの鳥類
 - * 各種昆虫、両生類、爬虫類など
 - * 希少生物(生息地・生息数が減少している生物)、外来生物の報告も受け付けています。
- 調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内 晩秋の「房総のむら」で里山の生き物を観察しよう!

- 房総の伝統的な武家・商家・農家等の建物が展示され、敷地内外に田畑や雑木林が広がり、自然と人間の関わりが創り出した昔ながらの風景が維持されている「房総のむら」で、晩秋の里山の生き物とその魅力を研修します。
- 開催日(荒天中止)
令和5年11月19日(日) 10時~12時(予定)
 - 定員: 40名(申込者多数の場合は抽選)。小学生以下が参加する場合は保護者同伴。
 - 申込締切: 令和5年11月6日(月)必着(郵送またはFAX)
 - 詳細は申込案内書をご覧ください。